

2014 年度 調査結果（2013 年 4 月発行）

海外留学生のキャリア意識と就職活動状況

企業の採用活動が現状より3カ月後ろ倒しになることで（2016年卒者から適用の見込み）、海外留学からの帰国者の就職環境の改善に繋がるのではないかと注目が集まっている。ディスコでは2月下旬から3月中旬にかけ、日本国外（海外）の大学で学んでいる学生、または交換・派遣留学等を終えた学生を対象に、職業観や留学生活など多岐にわたる項目を調査した。比較可能なものに関しては国内学生（日経就職ナビ・就職活動モニター）の調査データを引用しながら分析したい。

【主な調査内容】

1. 就職先企業を選ぶ際に重視する点	P 2
2. 就職したい理由	P 3
3. 就職したい企業の種類	P 3
4. 日本国外での勤務希望と働いてみたい国	P 4
5. 現在の語学力	P 5
6. 出世希望ランク	P 6
7. 企業に評価してもらいたい強み	P 7
8. 留学の目的、達成目標	P 8
9. 留学したことへのメリット	P 9
10. 留学したことへのデメリット	P 9

《調査概要》

調査対象：CFN (www.careerforum.net) に登録している【日本人留学生】 6,212 人
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2013年2月25日～3月13日

回答者の属性 単位：人

留学形態	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	現在の就職活動状況	全体
正規留学	250	83	99	33	35	採用内定を得て、就職活動終了	92
交換・派遣留学	76	27	42	4	3	採用内定を得ているが、就職活動継続中	46
語学留学	10	4	5	1	0	就職活動中だが、採用内定を得ていない	117
その他	6	1	1	4	0	インターンシップ中	16
合計	342	115	147	42	38	具体的な就職活動を始めていない	67
						その他	4
						合計	342

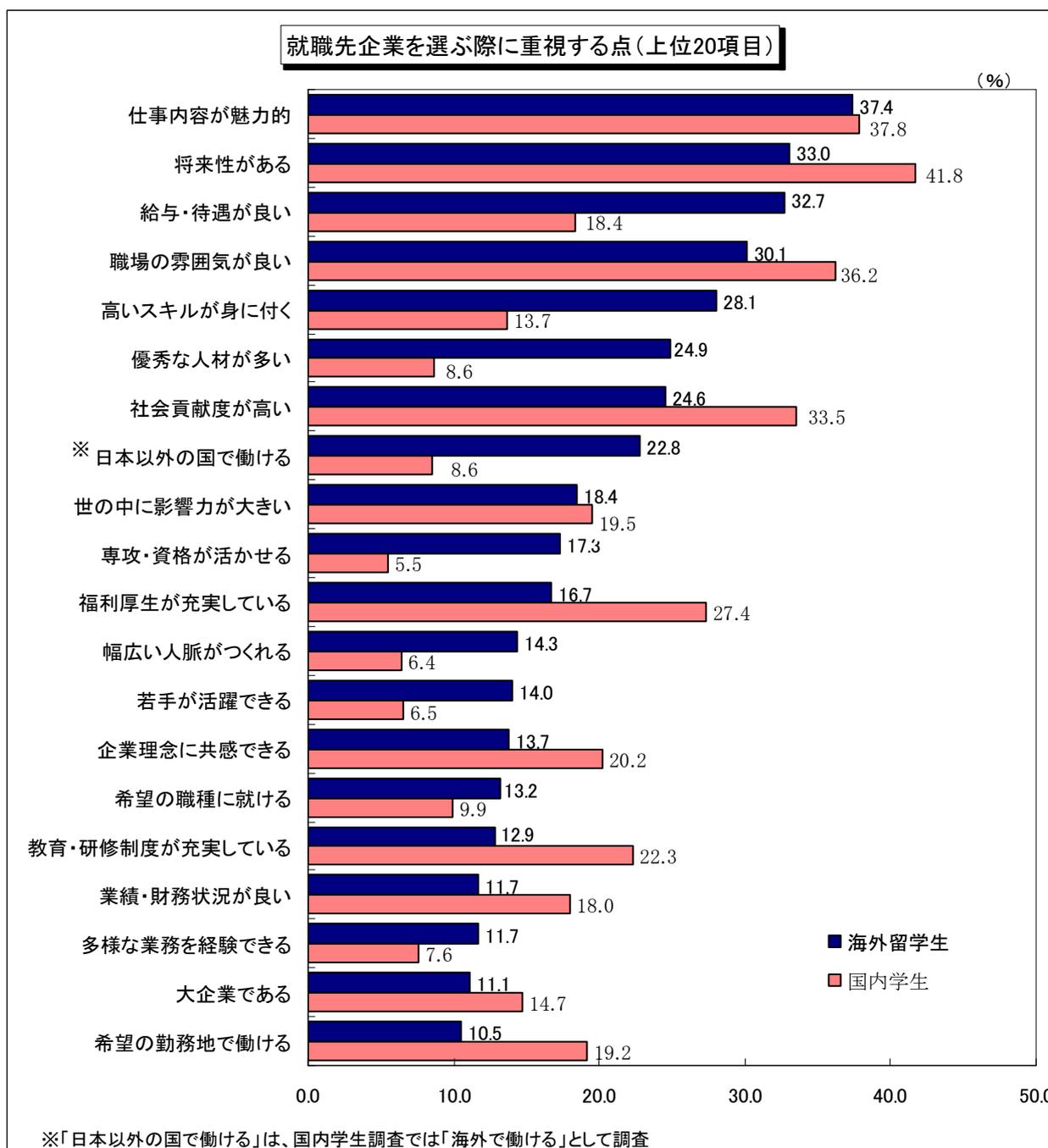
※国内学生の調査結果は「日経就職ナビ 2014 就職活動モニター調査」（2013年1月、2月調査）より

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-5804-5567 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

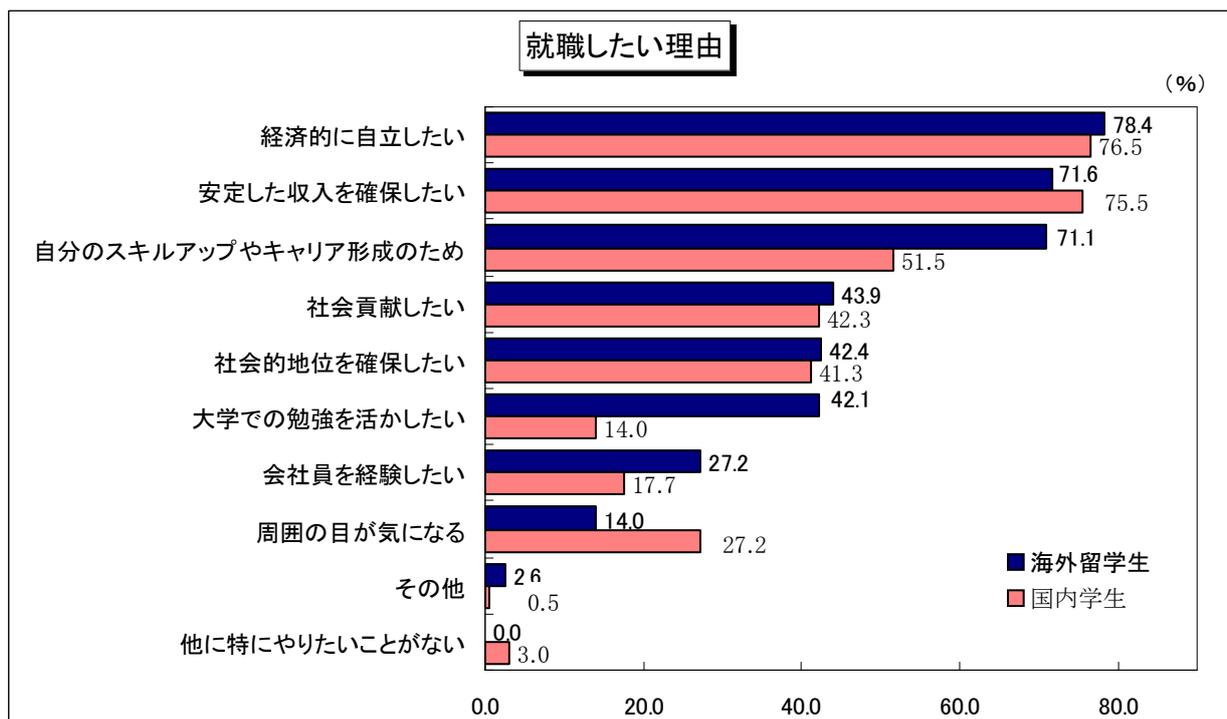
1. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

日本国外（海外）の大学で学んでいる学生、または交換・派遣留学等を終えた学生（以下、海外留学生）に対して、就職先企業を選ぶ際に重視する点を 31 項目の選択肢の中から 5 つまで選んでもらった。1 位は「仕事内容が魅力的」で 37.4%。日本国内の大学に通う学生（以下、国内学生）の 37.8% とほぼ同じ割合だった。しかし、海外留学生の 32.7% が選び 3 番目に多い項目となった「給与・待遇が良い」は、国内学生では 18.4% で大きな差が見られる。他に「高いスキルが身に付く」28.1%、「優秀な人材が多い」24.9%などで、国内学生よりも 2 倍以上多い数値となった。逆に「福利厚生が充実している」16.7%、「教育・研修制度が充実している」12.9%などは、国内学生よりも大幅に数値が低かった。海外留学生は、会社の制度などよりも実利的な面を重視する傾向があると言える。海外留学生を採用したい企業は、彼らの価値観を意識した対応が必要となるだろう。



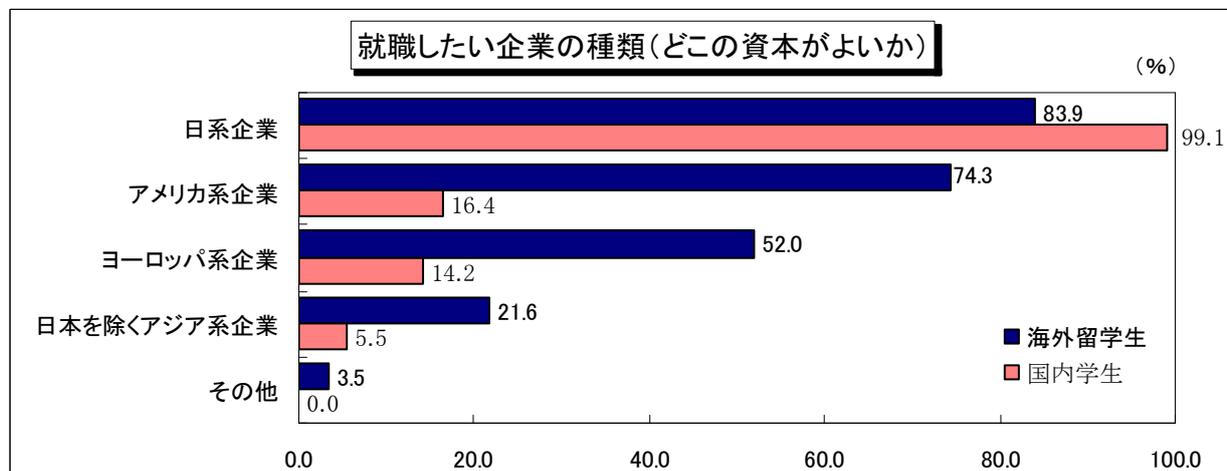
2. 就職したい理由

就職したい理由について聞いた。「経済的に自立したい」78.4%、「安定した収入を確保したい」71.6%と、国内学生と同様、経済的な理由が上位に来るが、「自分のスキルアップやキャリア形成のため」が71.1%で国内学生に比べて19.6ポイント高く、「大学での勉強を活かしたい」は国内学生より28.1ポイント高い42.1%だった。スキルアップを意識し、大学での学びを将来の仕事に活かしたいという高い意欲がうかがえる。



3. 就職したい企業の種類

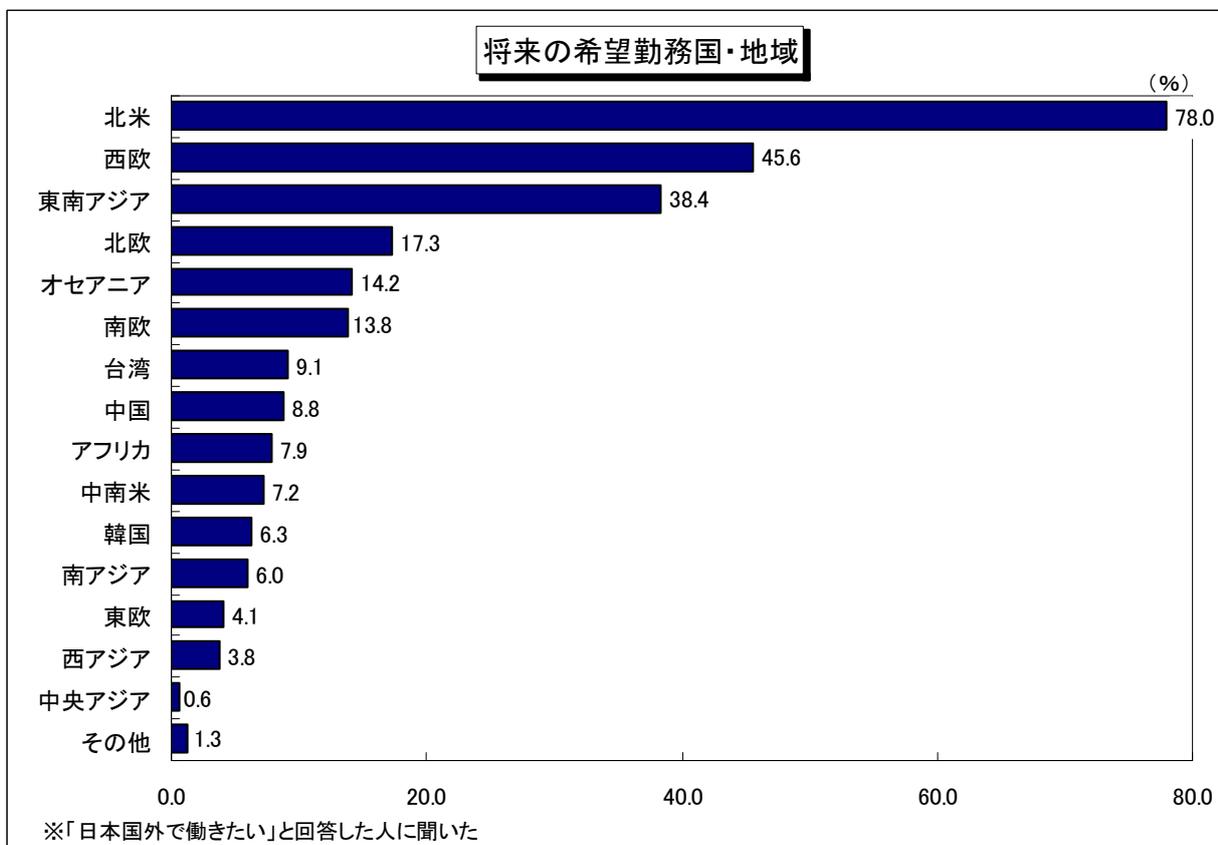
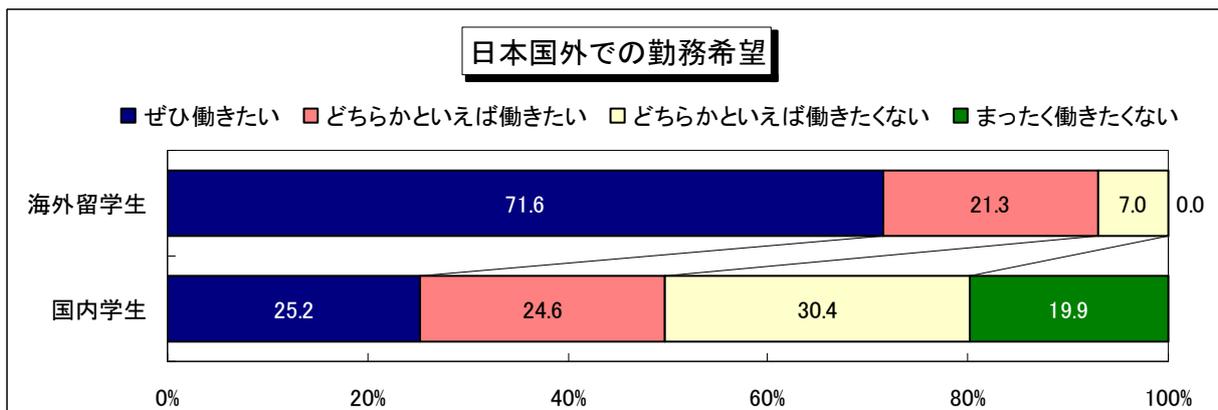
就職したい企業の種類について聞いたところ、「日系企業」が83.9%で最も多かったが、「アメリカ系企業」74.3%、「ヨーロッパ系企業」52.0%と、欧米系企業志向も多く存在していることがわかる。国内学生に比べ、かなり幅広く捉えている。



4. 日本国外での勤務希望と働いてみたい国

日本国外での勤務希望について聞いた。「ぜひ働きたい」が 71.6%と圧倒的に多い。「どちらかといえば働きたい」21.3%とあわせると 92.9%が日本国外での勤務を希望しており、国内学生の 49.8%と大きな差が開いている。

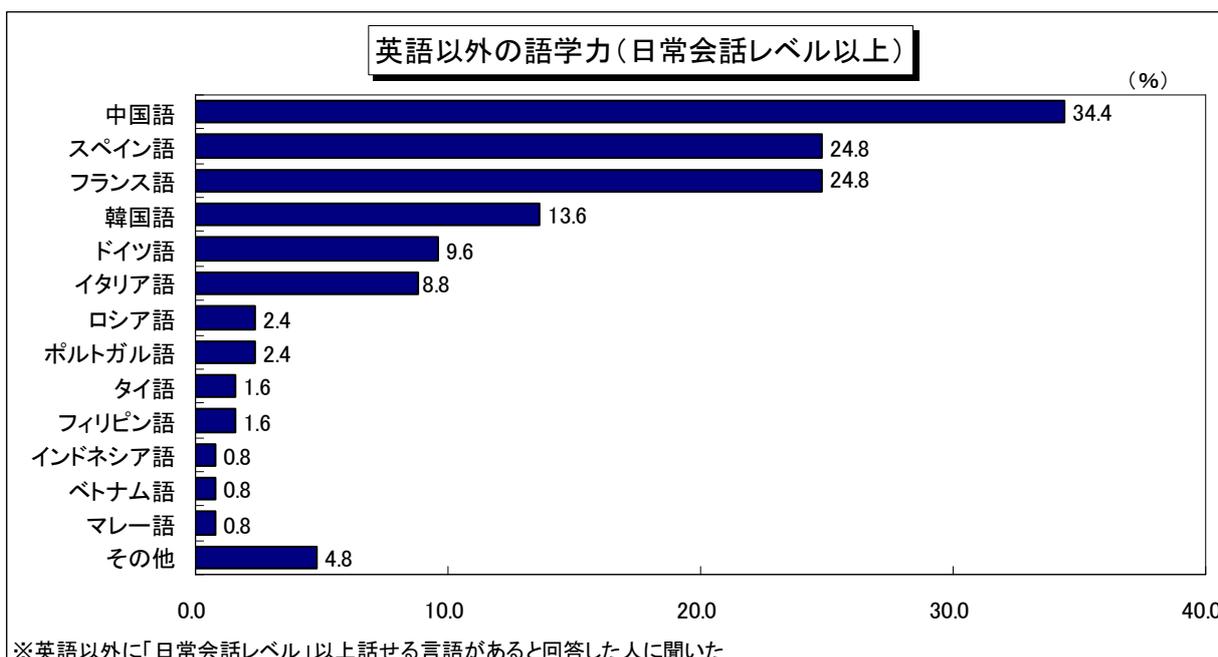
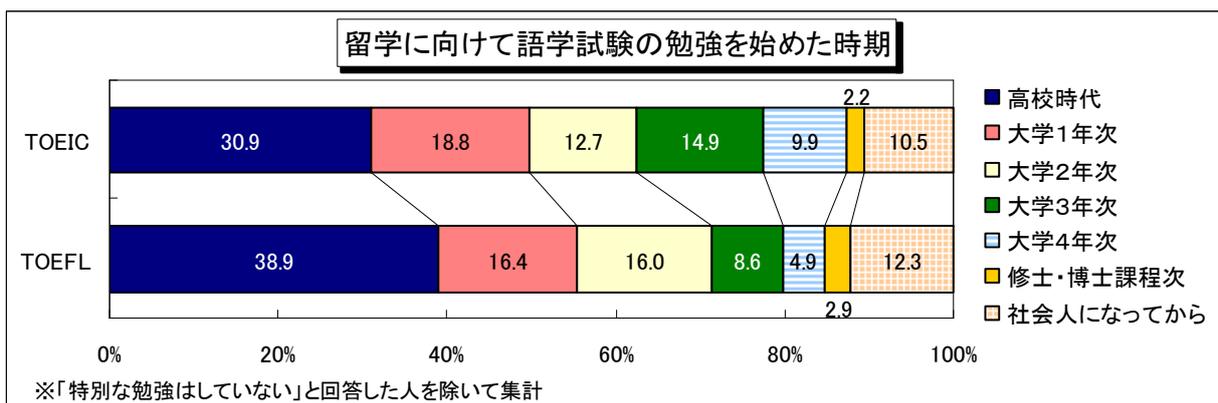
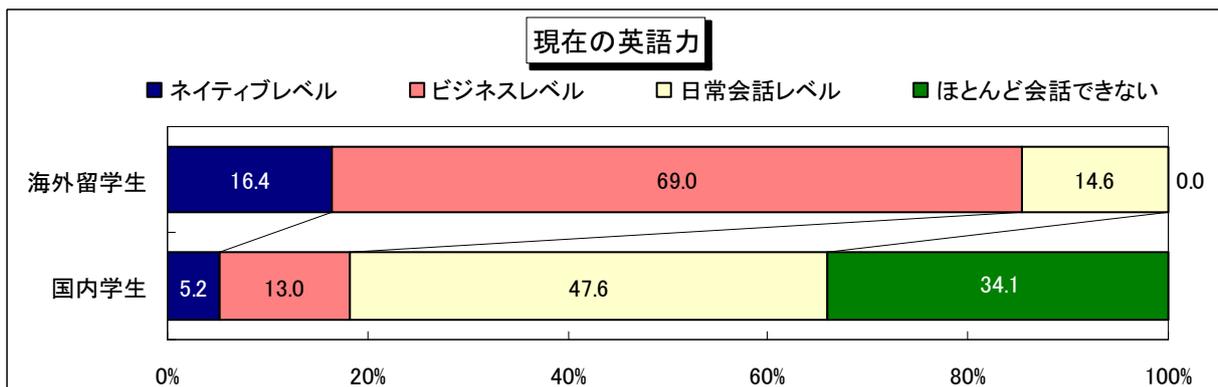
また、日本国外での勤務を希望する学生に対して、具体的にどこの国や地域で働いてみたいかを聞いたところ、「北米」が最も多く 78.0%と 8 割近くが選んだ。「西欧」が 45.6%で 2 位になるなど、ここでも欧米人気が表れている。一方で、経済成長著しい「東南アジア」を選んだ人も 38.4%にのぼり、新興国での就職への意欲も決して低くはない。海外留学経験のある学生は海外勤務に対して意識が強く、海外での事業を推進する上で戦力となる可能性が高いと言える。



5. 現在の語学力

現在の語学力について聞いた。英語力に関しては「ネイティブレベル」と回答した学生が 16.4%、「ビジネスレベル」が 69.0%と、9 割近い学生がビジネスで英語を使うことができると回答しており、国内学生の英語力と比べると圧倒的な差があることがわかる。留学に向け語学の勉強を始めた時期としては TOEIC、TOEFL とも「高校時代」が最も多かった。

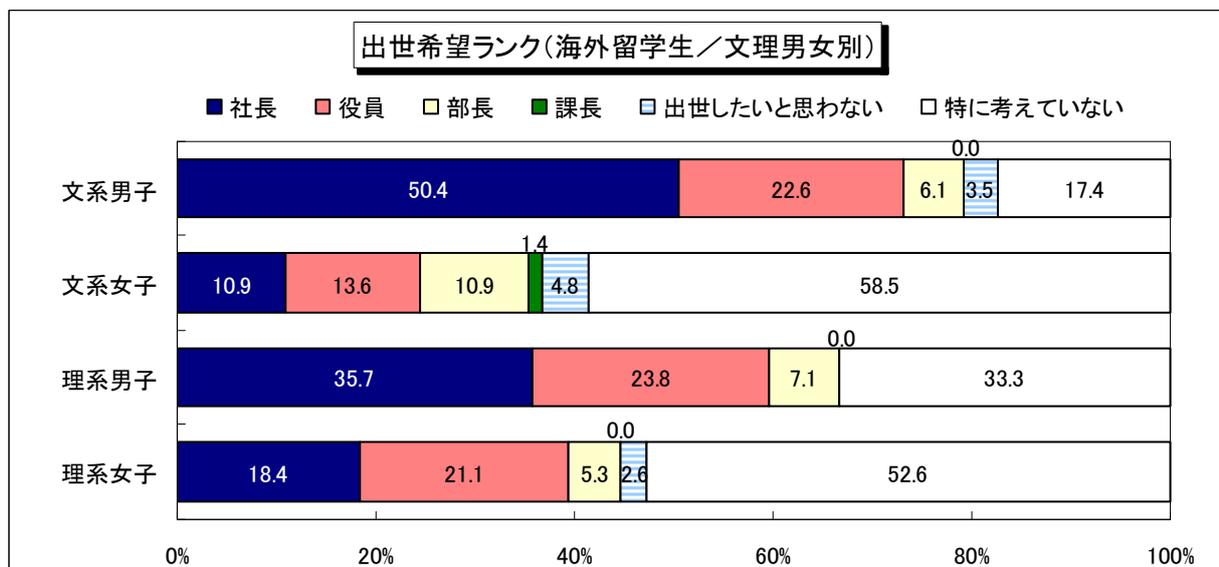
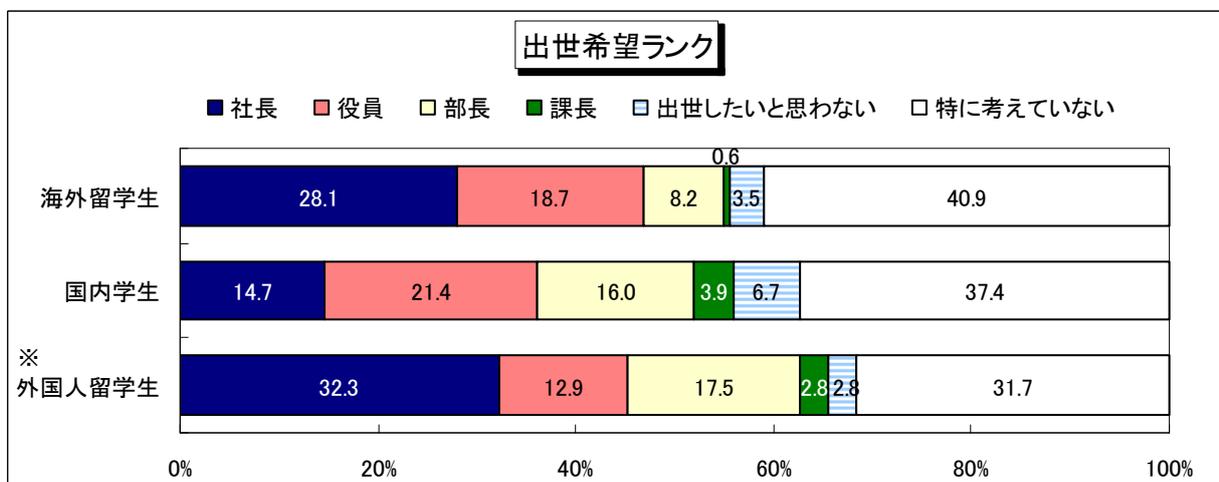
また、他の言語で「日常会話レベル」以上のものがある学生（全体の 36.5%）に聞いたところ「中国語」34.4%、「スペイン語」「フランス語」24.8%、「韓国語」13.6%の順に多かった。



6. 出世希望ランク

将来どこまで出世したいのかを聞いた。全体では「特に考えていない」が最も多く 40.9%を占めた。以下「社長」が 28.1%、「役員」18.7%と続く。国内学生よりも「社長」と回答した学生が 13.4 ポイント多かった。参考までに、同じ時期に日本の大学で学んでいる外国人留学生に調査した結果では、「社長」が 32.3%と 3 割強にのぼるなど、海外留学生と近いデータが得られている。

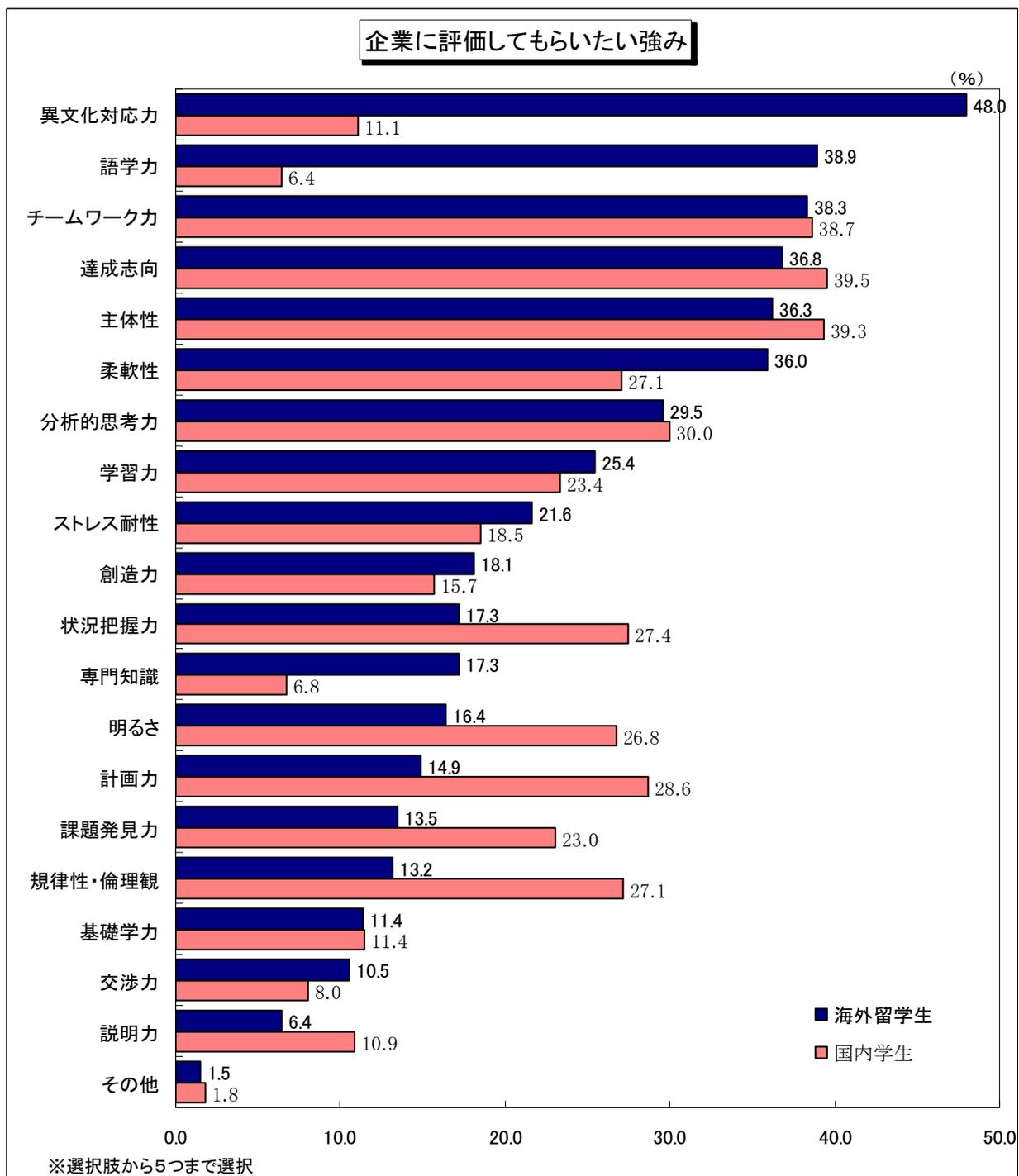
この質問に関しては、男女の意識の違いが大きく表れている。「社長」の割合をみると、文系男子が 50.4%、理系男子が 35.7%でともに 1 位なのに対して、文系女子は 10.9%、理系女子は 18.4%にとどまる。また、「特に考えていない」は、文系男子が 17.4%、理系男子が 33.3%であるのに対して、文系女子が 58.5%、理系女子が 52.6%と過半数を占める。将来のキャリアに対するイメージや、目的意識の差が大きいことがわかる。



※外国人留学生の調査結果は、「2014 年度 外国人留学生の就職活動調査」(2013 年 4 月発行) より

7. 企業に評価してもらいたい強み

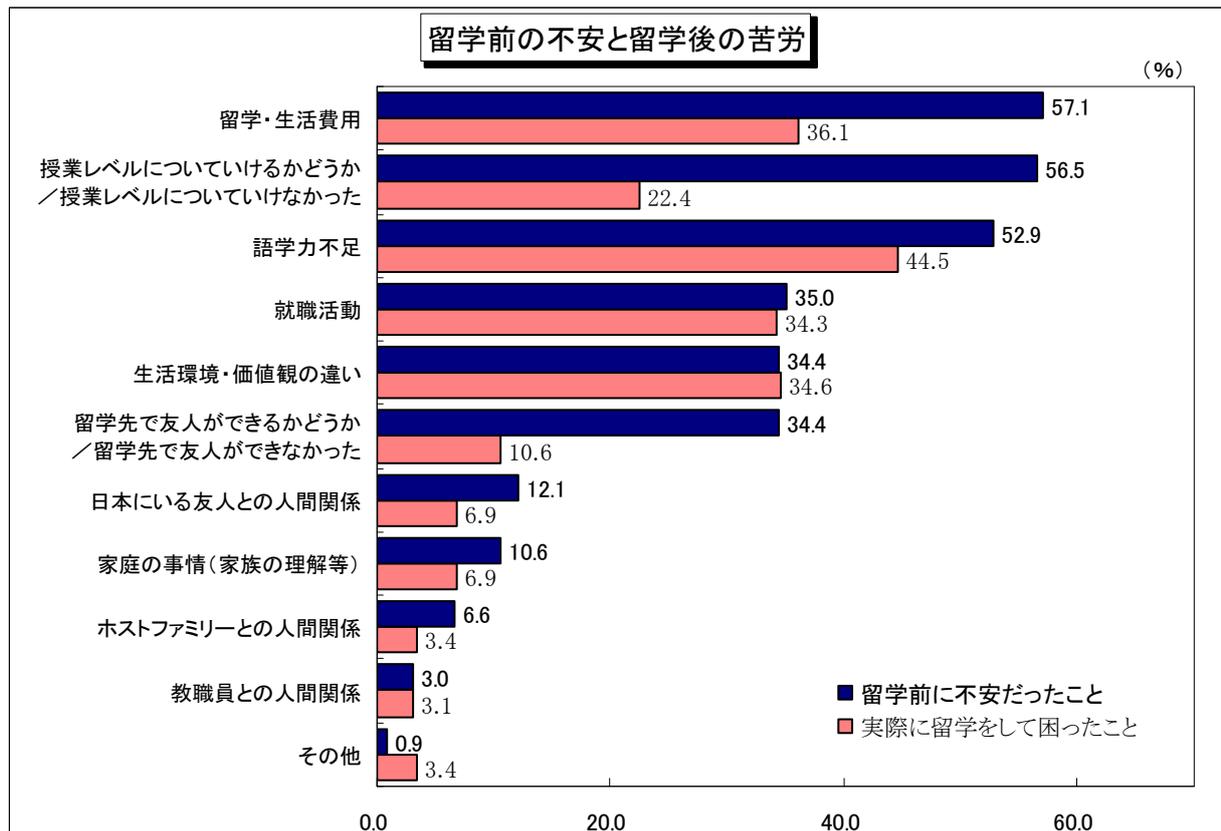
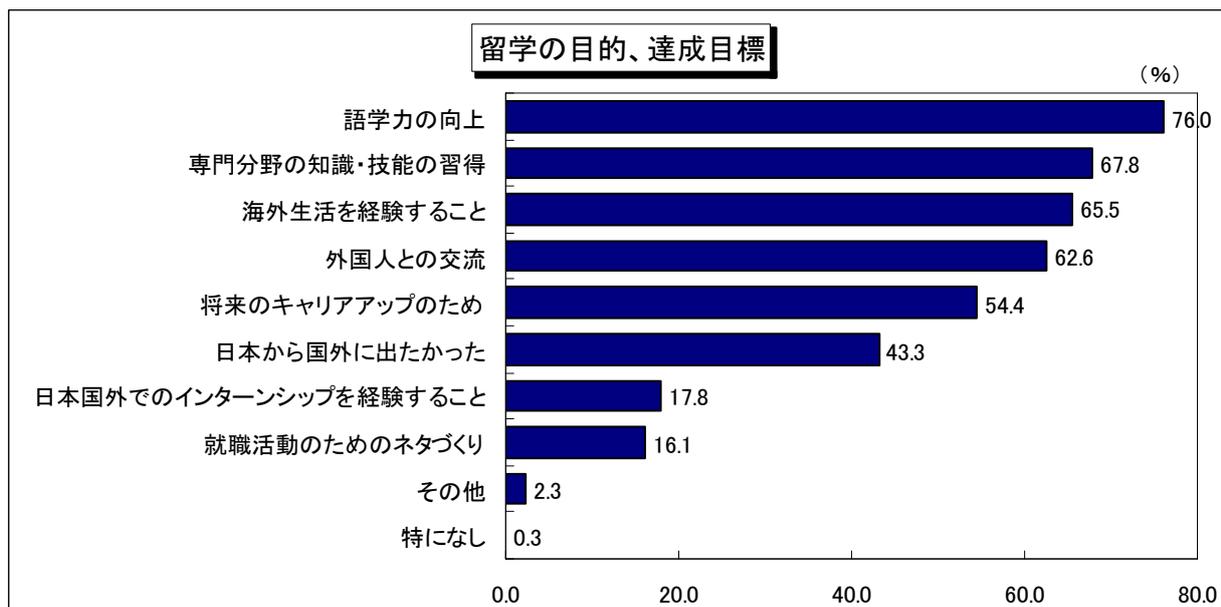
企業に評価してもらいたい強みについて、20 項目の選択肢の中から 5 つまで選んでもらった。1 位は「異文化対応力」で 48.0%。以下、「語学力」38.9%、「チームワーク力」38.3%の順。上位 2 項目は国内学生と大きな差がついている。海外の大学で母国語以外の言語を使って勉強に励んだり、異文化の中で苦労を重ねたりしたことが、自分の強みとして大きな自信となっているようだ。特に「語学力」は、国内学生は 6.4%で最もポイントの低い項目であり、30 ポイント以上の開きがある。グローバルなビジネスを展開できる人材としての可能性という点において、語学力が海外留学生にとって大きなアドバンテージになっていると言える。



8. 留学の目的、達成目標

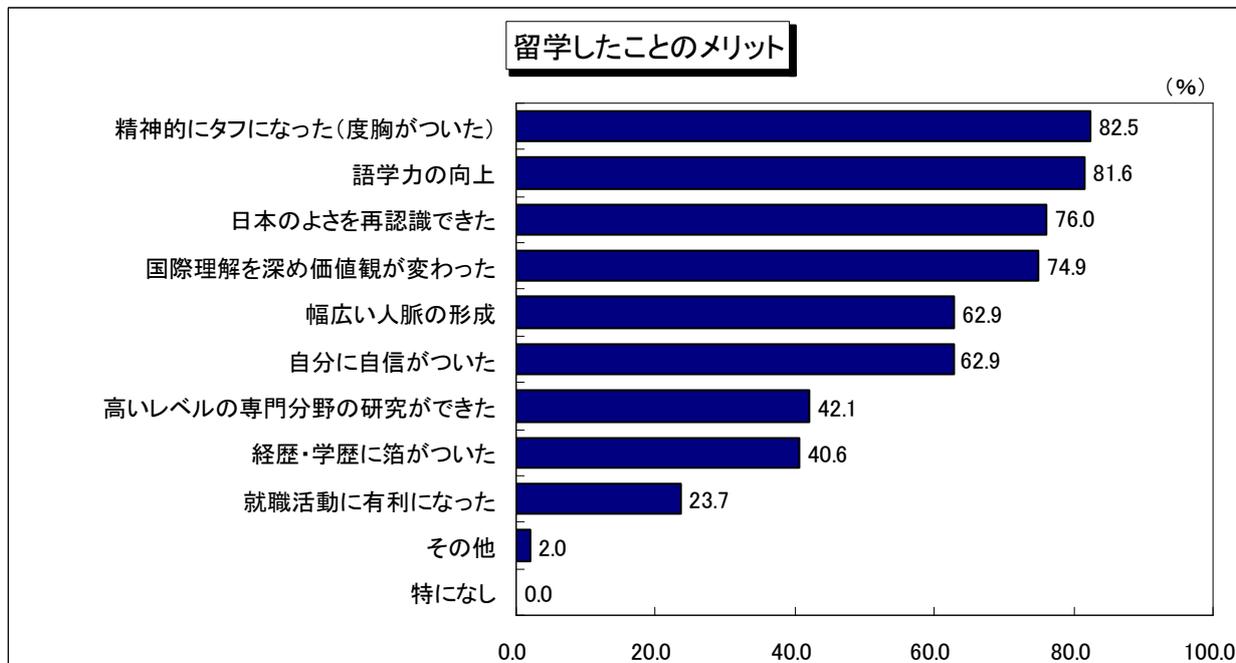
留学の目的、達成目標について聞いた。「語学力の向上」が最も多く 76.0%。以下、「専門分野の知識・技能の習得」67.8%、「海外生活を経験すること」65.5%と続き、「就職活動のためのネタづくり」は 16.1%であった。

留学前に不安に感じていたことと、留学後に困ったこととを比較すると、「留学・生活費用」「授業レベル」など多くの項目が留学後に大きくポイントを下げ、杞憂に終わった人が多かったのに対し、「就職活動」は変化なく、3 割以上が選択した。留学前から不安に思い、実際に就職活動をして改めて苦勞を感じた、という学生は少なくないようだ。



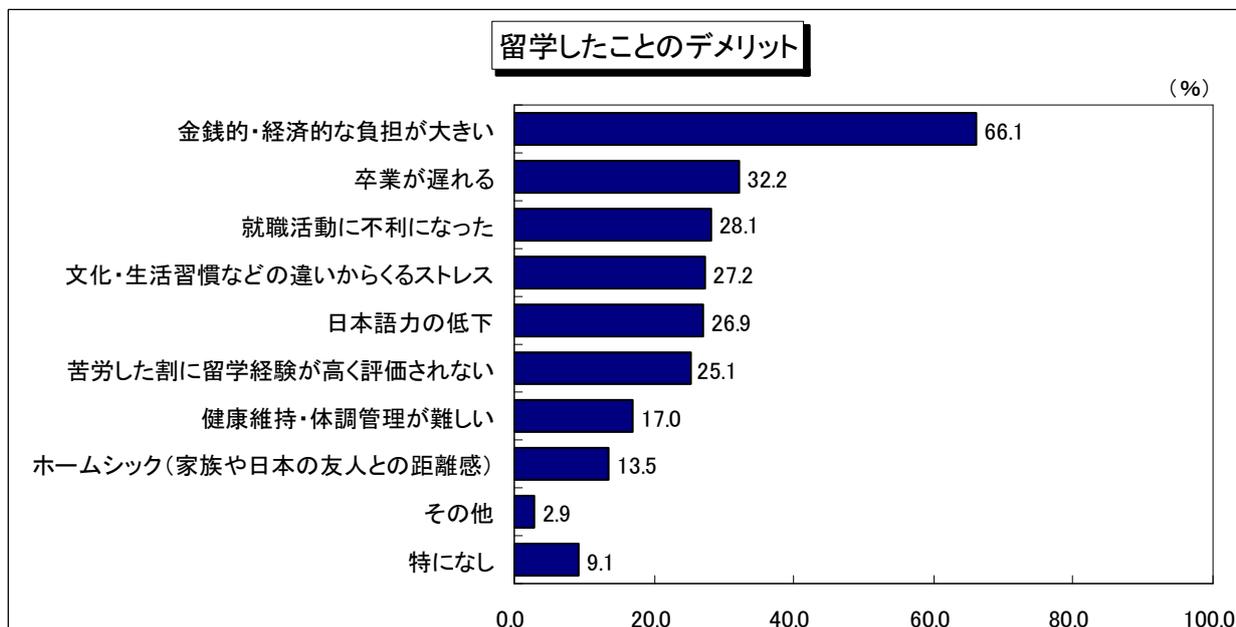
9. 留学したことへのメリット

海外の大学に留学したことへのメリットを選択肢からいくつでも選んでもらった。「精神的にタフになった（度胸がついた）」が 1 位で 82.5%、僅差で「語学力の向上」が 81.6%で続く。人間的な成長を示す項目の数値が高く、「経歴・学歴に箔がついた」「就職活動に有利になった」を選んだ人は少数だった。



10. 留学したことへのデメリット

逆に、留学したことへのデメリットを聞くと、「金銭的・経済的な負担が大きい」が 66.1%と圧倒的に多く、2 位の「卒業が遅れる」32.2%の 2 倍以上にのぼった。全体的に上記のメリットよりも数値が低く、それほどデメリットは感じていないことがわかる。「就職活動に不利になった」は 28.1%で、先にメリットのところで見たと「就職活動に有利になった」23.7%を上回る。



■留学がキャリア観や就職活動に与えた影響

- たくさんの異なる国の人とかかわる中で、自分の柔軟性が養われたと思う。そのことを就職活動での、自分のエピソードで語ったときに、反応がよかった。また、留学中に研修で訪れた国で、インフラの必要性を実感し、就職先の企業を絞ることができた。 <文系女子>
- 視野が広がったが、必ずしも自分の語学力を仕事で生かしたいとは考えなくなった。ストレス耐性やコミュニケーション力があがったので、幅広い分野の職種でやっていけると考えた。 <文系女子>
- 大企業でなくても、自分の力が発揮できる企業で働きたいと思うようになりました。確かに有名大学を卒業し、有名企業に就くことは素晴らしいと思いますが、自分のやっていることに喜びを感じる会社へ就職したいです。 <理系女子>
- 留学をしたことによって、日本の学生とは違うスケジュールで就職活動を行わないといけないので、就職先も限られてくる。 <文系女子>
- 就職活動において、日本での会社説明会への参加が必須である場合、ほぼ不可能なので、その時点でその会社への志望をあきらめなければならない。会社の方々と直接話せない分、ホームページの会社案内が分かりやすい会社をどうしても志望してしまいがちになる。 <理系男子>
- 留学中に様々な日本人の人たちに会い、はじめは一般企業に興味はなかったが、企業に入って出世したいと思った。 <文系男子>
- 大学院では医学系の研究をしているが、理系のメーカーだけではなく、もっと幅広く考え、商社なども視野に入れるようになった。 <理系男子>
- この留学を通じて将来は日本国内に留まらず、積極的に海外にも進出し、キャリアを積みたいと強く感じました。留学によって自立心が強まったためか、住む場所に関係なく、定年まで積極的に企業に貢献し、仕事を続けたいと思うようになりました。 <文系女子>

■日本の大学と海外の大学との違い

- 学生の意識が決定的に違うと感じます。多くの日本の学生は勉強よりもアルバイトやサークル活動に時間を費やすので、勉強時間が圧倒的に足りていないです。アメリカの学生はとにかく必死に勉強します。学生時代の成績が就職活動に大きな影響を与えることもその理由でしょう。 <文系男子>
- 日本国外では学校に出席すれば良いという考え方はなく、授業を通して何を感じ思ったかを適切に表現することを求められます。課題やチームプロジェクトも多いです。 <理系女子>
- アメリカの大学ではいい加減は許されず、授業に真剣でない者はついていけない。大学院ではキックアウト（退学）を迫られる。実際に友人が成績不振で母国に帰国した。 <文系男子>
- イギリスの大学の方が面倒見がよかったが、その分高校みただった。 <文系男子>
- 全体的な学習量にも表れるが、アメリカの大学は学ぶためや生きていくための実践的な知識や手段をまず身につけさせる点が、極めて優れていると思う（ライティングやスピーキング、統計などの授業が必修である点）。 <理系男子>
- 学部によって違うと思いますが、ビジネス学部（会計学）は、たくさんの社会人の人が同じクラスを受けています。私の大学はクラスメイトと競って GPA が決まるので、会社勤めの経験のない私にとって不利なところもあります。でも、色んな世代の人と関わりができて、好きな特徴でもあります。 <文系女子>
- 大きな違いはないと思う。制度というより個人の違い。 <文系男子>
- 教授との距離感は日本の大学より今在学中の大学の方が近いと思います。日本にいる友人達の話の聞いていると、課題の多さや自主性の求められ方も違うな、と思います。 <理系女子>
- 日本では、大学側が就職活動を大いにサポートしてくれるが、海外ではそうでもない。 <文系女子>